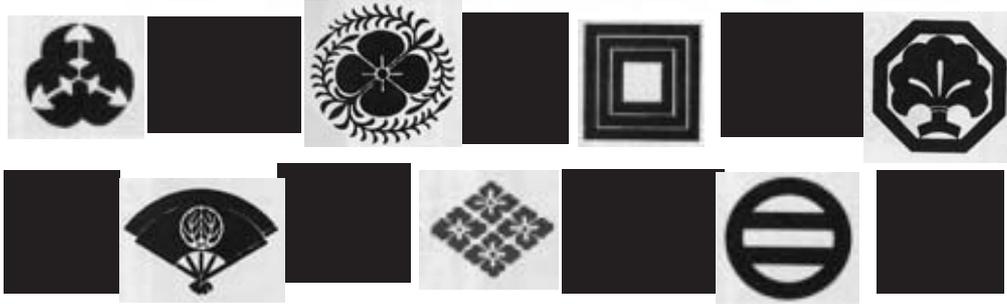


図書館展示 10月 2003  
竹内道敬寄託文庫

かぶきやくしゃいまむかし

# 歌舞伎役者今昔



芸の力・家の力

期間 10月8日 - 10月29日  
場所 図書館ブラウジングルーム

2003年10月図書館展示

かぶきやくしゃいまむかし

# 歌舞伎役者今昔

芸の力・家の力

今年(1603)年に出雲の阿国が京都で歌舞伎舞踊を初演してからちょうど400年目。私達の図書館も歌舞伎の場面を描いた浮世絵を数多く所蔵しているのをご存知ですか。その中心は文化期(1804-1817)から、幕末、明治期のおよそ100年間に渡る錦絵です。この100年の間、実にさまざまな役者が歌舞伎の舞台を飾ってきました。現代まで伝えられている名前も数多くあります。市川団十郎、尾上菊五郎、片岡仁左衛門、松本幸四郎、坂東三津五郎など現在の役者さんの顔を思い浮かべることができますか？現在まで脈々と続いている名前は必ずしも単に親から子へという血筋の継承ではありませんが、江戸の芝居絵にはどこかに彼らの祖先の顔に重なる部分があるような気がします。竹内道敬寄託文庫から役者の流れがわかるように、役者別にまた役名別に芝居絵を展示します。江戸時代の芝居絵を見て本物の迫力を体験しましょう。

竹内道敬寄託文庫 国立音楽大学の元教授で近世邦楽の研究者。膨大なコレクションが図書館に寄託され、全10巻にわたる目録が刊行されている。

## 目次

### 歌舞伎役者今昔 2

先代たちの芝居絵

市川団十郎

尾上菊五郎

中村勘九郎

坂東三津五郎

坂東しうかと坂東玉三郎

片岡仁左衛門

松本幸四郎

中村吉衛門

### 名優競演 8

さまざまな役者が演じた役

岩藤

与右衛門

### 女形の芸 11

玉三郎の持ち役を過去の芝居絵に見る

## 歌舞伎役者今昔

現在の人気役者たちと同じ役を、先代たちが演じている絵を取り上げます。



三升

### 成田屋 市川団十郎

江戸歌舞伎界屈指の名跡。7世は化政期から幕末までの長い間活躍した名優で広い役柄をこなした。歌舞伎十八番を選定。8世は7世の長男。その美貌は熱狂的な支持を得たが若くしてなぞの自殺を遂げた。9世は7世の五男。7世と同じく、幅広い役柄をこなした。演劇改良運動の中心人物であり、登場人物の心理描写に重きをおいた演技術の開拓、史劇の創設等、歌舞伎史に与えた影響は大きい。

11世は9世の直系ではなく、7世松本幸四郎の長男。天性の美貌と花のある演技で広い人気を獲得したが、団十郎襲名後わずか3年で亡くなった。現12世は11世の長男。現松本幸四郎、中村吉右衛門とはいとこ同士に当たる。11世、12世とも血筋という点では先代を受け継いでいるわけではないが、家の芸といわれている荒事を始め、先代たちのレパートリーを継承している。

#### 7世団十郎の安名

文政3年(1820)9月、河原崎座

芝居名：蘆屋道満大内鑑(あしやどうまんおおうちかがみ)

奴与勘平：市川鯉十郎(初世)

安名：市川団十郎(7世)

絵師：五渡亭国貞(歌川豊国3世)



『蘆屋道満大内鑑』は信太の森の白狐が安倍の保名と契りを結んで、陰陽師安倍晴明が生まれたという伝説を基にした芝居。

この絵はその二段目、安名が恋人榊の前を失った悲しみで気が狂い、形見の小袖を抱いてさすらい、奴与勘平がその後を追う場面。団十郎31歳。

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：72

#### 8世団十郎の安名

嘉永3年(1850)5月、中村座

芝居名：蘆屋道満大内鑑(あしやどうまんおおうちかがみ)

安名：市川団十郎(8世)

葛の葉狐：坂東しうか(初世)

絵師：歌川国芳



『蘆屋道満大内鑑』の4段目。安名に助けられた白狐は彼の恋人「葛の葉」に化身し安名との間に一子晴明をもうけるが、本物の葛の葉姫が現れたため我が子を残し、口に筆をくわえて別れの歌を残して去っていく。団十郎27歳。

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：134

## 9 世団十郎の安名

文久元年(1861)9月、市村座  
芝居名：名相統信田嫁入(なをついでしのだのよめいり)  
安名：河原崎権十郎(初世)後の9世市川団十郎  
葛の葉姫：中村芝翫(4世)  
絵師：歌川豊国3世



芝居名が変わっているが、同じく『蘆屋道満大内鑑』による。葛の葉狐が去ったあとの安名と葛の葉姫の道行き。使われた音曲は新内、長唄、竹本の合奏による「吾住森野辺乱菊」(わがすむもりのべのらんぎく)。団十郎23歳。

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：270

## 12 世団十郎の保名

平成10年(1998)6月 歌舞伎座  
12世の演じる保名は歌舞伎から作られた舞踊で、曲は清元。恋人を失った保名が肩身の小袖を抱いて菜の花が咲く野辺を狂う。文政元年に初演されて以来途絶えたが、9世団十郎が復活した。現団十郎の父、11世団十郎の最後の舞台となったのも同じ演目である。

『演劇界』1998年7月号 表紙 請求記号 P920/56(8)



重ね扇に抱き柏

## 音羽屋 尾上菊五郎

市川家と並ぶ歌舞伎の名門。3世は初世の門人であった尾上松録の弟子で、1815年にしばらく途絶えていた菊五郎を襲名。1847年までの永い間時代を代表する名優だった。美貌で実力があり、人気も抜群。幅広い役柄をこなした。細かい写実性に優れ、江戸のいきな生世話の芸に秀でている。4世は3世の娘婿。女形として幕末の舞台で活躍した。5世は4世の子供で3世の孫。6世はその子供で7世は6世の孫に当たる。3世が得意とした生世話の伝統は現7世まで脈々と続いている。

## 3 世菊五郎の玉屋新兵衛

文化6年(1809)3月、森田座  
芝居名：富岡恋山開(とみがおかこいのやまびらき)  
玉屋新兵衛：尾上栄三郎(初世)後の3世尾上菊五郎  
絵師：歌川豊国初世



どの場面を描いたものかは不明。話は遊女三国屋小女郎をめぐる玉屋新兵衛と出村新兵衛の恋模様に加えて、玉屋新兵衛の小女郎兄殺しがからむ。

菊五郎は25歳。7世菊五郎は玉屋新兵衛を2000年12月に演じた。

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：41

## 世菊五郎の勘平

明治 11 年(1878)11 月、新富座  
芝居名：仮名手本忠臣蔵（かなでほんちゅうしんぐら）  
さぎ坂伴内：市川左団次(初世)  
早野勘平：尾上菊五郎(5 世)  
腰元おかる：岩井半四郎(8 世)  
絵師：守川周重



『仮名手本忠臣蔵』は史実を基に作られた人気狂言。この場面は三段目切で演じられる舞踊「道行旅路の花婿」で音楽は清元。お軽勘平に道化役の伴内がからむ。菊五郎 34 歳。

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：27

## 6 世菊五郎の勘平

大正 15 年(1925)2 月 新橋演舞場  
芝居名：仮名手本忠臣蔵（かなでほんちゅうしんぐら）  
早野勘平：尾上菊五郎(6 世)  
忠臣蔵 6 段目勘平切腹の場面。菊五郎は 41 歳。

『演劇界』「別冊名優アルバム六代目尾上菊五郎」p.15 (1999) . 請求記号 P920/57(7)

## 7 世菊五郎の勘平

左は 6 段目勘平切腹の場面(1988 年 4 月歌舞伎座 相手役は玉三郎)。5 世菊五郎が完成した型である。右は 5 段目山崎街道の場面より(1983 年 12 月歌舞伎座)。

『七代目菊五郎の芝居』 大倉舜二 平凡社 1989 請求記号 C46-600



隅切角に一枚銀杏

## 中村屋 中村勘九郎

中村屋は代々江戸中村座の座元。ただし座元としての名前は明治 8 年(1875)に断絶した。役者としては勘九郎の父勘三郎(養子)が幅広い役柄と技巧的な表現力を持って昭和に活躍した。勘九郎の母は 6 世菊五郎の長女。したがって 5 世菊五郎のひ孫に当たり、現菊五郎とはいとこ同士。

## 5 世菊五郎の髪結新三

明治 26 年(1893)4 月、歌舞伎座  
芝居名：梅雨小袖昔八丈（つゆこそでむかしはちじょう）  
髪結の新三：尾上菊五郎(5 世)  
手代忠七：尾上菊之助(2 世)  
娘おくま：中村福助(4 世)後の中村歌右衛門(5 世)



後家おつね：市川寿美蔵(5世)

絵師：歌川国貞(3世)

『梅雨小袖昔八丈』は江戸前の小悪党の髪結新三がそそのかし、ゆすり、監禁をしたあげく殺される話。

白子屋の娘お熊は手代忠七と深い仲だが、母お常は傾きかけた家のため金持の又四郎を婿にと考えている。それを知った新三は忠七に駆け落ちを勧める。この芝居は河竹黙阿弥が5世菊五郎のために書き下ろした世話狂言。尾上家の家の芸である。

菊五郎 49歳。

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：364

## 6世菊五郎の髪結新三

昭和17年2月 歌舞伎座

『演劇界』「別冊名優アルバム六代目尾上菊五郎」p.15(1999). 請求記号 P920/57(7)

中村勘九郎は昭和63年4月と平成元年5月に新三を演じている



三ツ大

## 大和屋 坂東三津五郎

3世坂東三津五郎は初世の子で、江戸役者の親玉とたたえられた名優。あらゆる役柄に通じ、なかでも和実と所作ごとを得意とした。舞踊の名手として知られ、坂東流の基礎を築いた。その後の三津五郎は系図が示すように、必ずしも実子による継続してきたが、どの三津五郎も舞踊の名手として名高い。

## 3世三津五郎の亀屋忠兵衛

文化10年(1813)1月、中村座

芝居名：初便廓玉章(はつたよりくるわのたまづさ)

忠兵衛：坂東三津五郎(3世)

梅川：沢村田之助(2世)

絵師：歌川豊国(初世)

飛脚屋亀屋忠兵衛は遊女梅川の見請を八右衛門と張り合って公金を横領、故郷新口村に逃れ、実父孫右衛門との体面を果たしたのち、捕らえられる。

描かれた場面は富本の「三度傘故郷春雨」(さんどがさきょうのはるさめ)にのって踊られる道行き。三津五郎 38歳。



竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：50

現在の坂東三津五郎は八十助時代の平成7年から蜷川幸雄演出の「近松心中物語」で忠兵衛を11年まで4度演じている。公演は歌舞伎ではなく、相手役は女優であったが、歌舞伎の型にとらわれることなく、写実を取り入れた忠兵衛と評された。



花かつみ

## 大和屋 坂東しゅうかと坂東玉三郎

坂東しゅうかは三世三津五郎の養子で死後、五世三津五郎を追贈された。弘化から安政(1844-60)にかけての代表的な女形で華やかな芸風、優れた風姿にくわえ、悪婆役を得意とした。8世団十郎と組んださまざまな演目は、多くの「死絵」(死後描かれる絵)にまで描かれている。前名は玉三郎で、現玉三郎は名前とともにその芸風も約150年の時を越えて受け継いだ。

なお、『大都会成扇絵合』で三浦の揚巻を演じている坂東三津五郎6世は坂東しゅうかの子供。

### しゅうかのお富

安政2年(1855)3月  
横ぐしお富：坂東しゅうか(初世)  
向疵ノ予三：市川団十郎(8世)  
絵師：歌川豊国(3世)

しゅうかは実際にはお富を演じていないが、芸風はお富にふさわしかっただろう。この絵はしゅうかが亡くなった同年同月に生前を偲んで作成された。いっぽう、団十郎は初演の嘉永6年(1853)、安政元年(1854)年に演じており、彼のあたり役の一つであった。



竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：423

### 玉三郎のお富

昭和52年(1977)5月 歌舞伎座  
芝居名：与話情浮名横櫛(よはなさけうきなのよこぐし)  
お富：坂東玉三郎  
与三郎：尾上菊五郎(7世)  
写真：大倉舜二

玉三郎のお富は昭和49年(1974)を皮切りに現在まで10回演じられている。

『坂東玉三郎 onnangata』大倉舜二 平凡社 1983 請求記号 C43-537

### 玉三郎の桜姫

桜姫東文章(さくらひめあずまぶんしょう)  
昭和60年(1985)3月 歌舞伎座  
桜姫：坂東玉三郎  
釣鐘権助：片岡孝夫後の片岡仁左衛門(15世)  
写真：篠山紀信

僧侶が女性の色香に迷い墮落していく「清玄桜姫もの」のひとつ。高貴なお姫様が女郎にまで身を落とす。幽霊あり、殺人ありと奇抜な内容だが、文化期を代表する傑作。

『坂東玉三郎の世界』篠山紀信 朝日新聞社 1988 請求記号 C45-899



松嶋屋  
片岡仁左衛門

七ツ割り丸に二引

8世仁左衛門は現 15世仁左衛門の曾祖父。容姿に優れ色立役を本領としたが晩年には武道、敵役、女形も勤めた。10世は8世の子供。前名我童での活躍が長い。関西風の演技和事と色立役を本領としている片岡家にとって伊左衛門は家の芸である。

8世仁左衛門の伊左衛門

安政3年(1856)7月  
夕霧：岩井糸三郎(3世)後の岩井半四郎(8世)  
伊左衛門：片岡我童(2世)後の片岡仁左衛門(8世)  
絵師：歌川豊国(3世)

遊女夕霧と勘当された藤屋伊左衛門が廊である吉田屋でおりなす色模様を描いたもの。実際の舞台を描いたものではないが、8世は天保3年(1839)に大阪で、安政元年(1854)に江戸中村座で伊左衛門を演じている。中村座での相手役は絵と同じ糸三郎であった。仁左衛門46歳。



竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：441

10世仁左衛門の伊左衛門

明治17年(1884)1月 市村座  
芝居名：梅薫廊文章(うめかおるくるわぶんしょう)  
なかいおまつ：岩井松之助(4世)  
たいこもち駒太夫：中村福助(4世)後の中村歌右衛門(5世)  
扇屋夕霧：中村芝翫(4世)  
藤屋伊左衛門：片岡我童(3世)後の片岡仁左衛門(10世)  
絵師：豊原国周



仁左衛門33歳。現15世も数回演じている。

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：350



高麗屋

松本幸四郎

四ツ花菱

播磨屋

中村吉右衛門

揚羽の蝶



5世幸四郎はその風貌から「鼻高幸四郎」と呼ばれ、幅広い役柄をこなしたが実悪を得意とした。活躍時期は18世紀終わりから天保9年(1838)に没するまでと長く、古今無類、三都随一と賞賛された。6世は5世の長男で、5世のあたり役を継いだが早世した。9世松本幸四郎は明治の名優で9世団十郎の弟子だった7世松本幸四郎の孫。2世中村吉右衛門は弟、市川団十郎とはいとこにあたる。

## 5 世幸四郎の長右衛門

文化 9 年(1812)年 5 月 市村座  
芝居名：誂縹子帯屋(あつらえしゅすのおびや)  
おはん：沢村田之助(2 世)  
長右衛門：松本幸四郎(5 世)  
絵師：歌川豊国(3 世)



14 歳の娘と彼女に運命を狂わされる実直な商人長右衛門の心中話。幸四郎 48 歳。なお、長右衛門は幸四郎の弟の 2 世中村吉右衛門が平成 12 年(2000)2 月に歌舞伎座で演じた。

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：46

## 9 世幸四郎の関兵衛と大伴の黒主

平成 8 年(1996)12 月 歌舞伎座  
芝居名：積恋雪関扉(つもるこいゆきのせきのと)  
写真：大倉舜二

『積恋雪関扉』は常磐津の大曲。関守関兵衛実は天下を狙う大伴の黒主とそれを打ち砕く、宗貞、墨染桜の精、小町姫を描く。

写真の左は関兵衛、右は正体をあらわした大伴の黒主。5 世幸四郎は 2 回、7 世は 8 回、8 世は 15 回も演じ、松本家の代表的な役柄の一つである。現幸四郎も染五郎時代から何度か演じている。

『歌舞伎』大倉舜二写真 上村以和於文 講談社インターナショナル 2001 請求記号 C65-399

# 名優競演

さまざまな役者が演じた同じ役「岩藤」と「与右衛門」

## 岩藤

岩藤は『加賀見山旧錦絵(鏡山旧錦絵)』(かがみやまこきょうのにしきえ)に登場する位の高い局で、立役が演じる典型的な敵役。局岩藤に侮辱を加えられた主人尾上の仇を下女お初が討つという話で、『再岩藤』はその後日段。3 月の御殿女中の宿下がりを目当てとした人気狂言である。岩藤は時の人気役者が勤めた。現代でも 12 世団十郎、15 世仁左衛門が演じている。



## 3 世菊五郎の岩藤

文政 4 年(1821)3 月 河原崎座  
芝居名：松尾上岩藤(いろそゆるおのえいわふじ)  
おはつ：中村大吉(初世)  
岩ふじ：尾上菊五郎(3 世)  
絵師：歌川豊国(初世)

大吉と菊五郎は一日替わりで演じた。

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：74

### 3 世三津五郎の岩藤

文政 9 年(1826)3 月 市村座  
芝居名：江戸仕入難行列(えどしいれひなのぎょうれつ)  
おはつ：岩井半四郎(5 世)  
局岩ふじ：坂東三津五郎(3 世)  
絵師：歌川国安(初世)

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：86



### 8 世団十郎の岩藤

嘉永 6 年(1853)3 月 中村座  
芝居名：花 初役(はなとみますやよいのはつやく)  
局岩藤：市川団十郎(8 世)  
召仕お初：市川小団次(4 世)  
絵師：歌川豊国画(3 世)

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：184



### 8 世仁左衛門の岩藤

安政 4 年(1857)3 月 中村座  
芝居名：金竜山千本初花(きんりゅうざんちもとのはつなは)  
召仕おはつ：岩井桑三郎(3 世)後の岩井半四郎(8 世)  
局岩藤：片岡仁左衛門(8 世)  
絵師：歌川豊国(3 世)

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：218



### 5 世菊五郎の岩藤

明治 28 年(1895)4 月 新富座  
芝居名：加賀見山再岩藤(かがみやまごにちのいわふじ)  
岩藤の霊：尾上菊五郎(5 世)  
絵師：豊原国周

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：367



野原に打ち捨てられた岩藤の骨が集まって骸骨になる場面とこの絵の日傘を差した岩藤の宙乗りの場面が有名。背景となっている薄い水色は岩藤が亡霊であることを表わしている。現在平成中村座で中村勘九郎が演じているのもこの岩藤である。

### 6 世幸四郎の岩藤

嘉永元年(1848)3 月 河原崎座  
芝居名：鎌倉山桜御所染(かまくらやまさくらのごしよぞめ)  
尾上：尾上菊五郎(4 世)  
おはつ：沢村宗十郎(5 世)  
岩藤：松本幸四郎(6 世)  
絵師：一勇齋国芳

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：120



## 与右衛門

鏡をみて自分が醜婦と知った女主人公が夫の与右衛門に殺される話。舞踊劇『かさね』になったり、他の狂言に組み込まれたりしている。「累もの」という言い方が出来るほどさまざまな物語が作られた。落語の「真景累ヶ淵」もその一つ。与右衛門は四谷怪談の民屋伊右衛門とならんで、色悪の代表的な役。

### 7 世団十郎の与右衛門

文化 10 年(1813)8 月 市村座

芝居名：累淵扱其後（かさねがふちさてもそののち）

与右衛門：市川団十郎(7 世)

絵師：歌川豊国(初世)

鶴屋南北が工夫した衣装の模様「カマワヌ」は江戸中に流行した。

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：55



### 3 世尾上菊五郎の与右衛門

文政 3 年(1820)7 月 大阪松代座(角)

芝居名：菊月入船斬（きくつきいりふねものがたり）

駒形蔵之進：中村歌右衛門(3 世)

与右衛門：尾上菊五郎(3 世)

浮世又平：大谷友右衛門(2 世)

絵師：五渡亭国貞(3 世歌川豊国)

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：71



### 3 世坂東三津五郎の与右衛門

天保元年(1830)3 月 市村座

芝居名：全盛陸奥山（ぜんせいこがねのはな）

与右衛門：坂東三津五郎(3 世)

金五郎：片岡市蔵(初世)

累：岩井桑三郎(2 世)後の岩井半四郎(6 世)

さぶ：関三十郎(2 世)

絵師：五渡亭国貞(3 世歌川豊国)

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：98



### 8 世市川団十郎の与右衛門

嘉永 6 年(1853)1 月 中村座

芝居名：拳廊三升伊達染（こぞってくるわますのだてぞめ）

与右衛門女房累：市川小団次(4 世)

とうふ屋さぶ：関三十郎(3 世)

編川与右衛門：市川団十郎(8 世)

3 世歌川豊国画

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：182



## 9 世市川団十郎の与右衛門

慶応元年(1865)8月

与右衛門：河原崎三升後の市川団十郎(9世)

9世団十郎が与右衛門を演じた記録は現在のところ見当たらない。カーネーションと歌舞伎、なんとなくミスマッチの感があるが、この花は既に江戸初期に日本に渡来している。当時の名は紅夷石竹(おらんだせきちく)、画題に見える「瞿麦」、あるいは麝香ナデシコといった。背景のカーネーションは「累物」の重要なレパートリーのひとつ「色彩間刈豆」(いろもようちよとかりまめ)の詞章「消ゆる姿の八重なでしこ、これや累の名なるべし」に由来する。夏の花で優しげな風情のナデシコと夏の人気狂言を掛けたしゃれた絵である。



竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：483

## 女形の芸

玉三郎の持ち役を過去の芝居絵に見る



### お染

文化8年(1811)3月 中村座

芝居名：浮名種艶油(うきななたねあぶら)

おそめ：瀬川路考後の瀬川菊之丞(4世)

久松：沢村田之助(2世)

絵師不詳

商家の娘と使用人との間の恋物語で実話を基にしている。この場面は二人の道行きの場面で音楽は富本の「花曇傘相合」(はなぐもりひがさのあいやい)。

久松役の2世田之助も当時を代用する女形である。現在歌舞伎座で行われている玉三郎の「お染の七役」も同じ話に基づいている。



竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：43



### 桜姫

安政5年(1858)3月 市村座

芝居名：江戸桜清水清玄(えどざくらきよみずせいげん)

桜姫：尾上菊五郎(4世)

清玄：市川小団次(4世)

絵師：歌川豊国(3世)

清水寺の僧清玄が桜姫の色香に迷い墮落して殺され、その執念が姫に取り付くという「清玄桜姫もの」のひとつ。

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：229

## 揚巻

明治 2 年(1869)7 月 中村座  
芝居名：大都会成扇絵合（さんがのつのおおぎえあわせ）  
三浦の揚巻：坂東三津五郎(6 世)  
花川戸助六：中村芝翫(4 世)  
髭意休：尾上菊五郎(5 世)  
絵師：豊原国周



町人と遊女の恋物語。実話を基にしている。正月公演には欠かせない演目の一つであるが、この絵の公演は 7 月に、常磐津文字太夫の 7 回忌を偲んで上演された。後ろに太夫と三味線方がずらりとならぶ「出語り図」である。

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：22



## 墨染桜の精

万延元年(1860)11 月 守田座  
芝居名：積恋雪関戸（つもるこいゆきのせきのと）  
墨染櫻ノ精：市川新車後の市川門之助(5 世)  
大伴ノ黒主：中村芝翫(4 世)  
絵師：歌川豊国(3 世)

（内容は松本幸四郎の項を参照）

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：253

## 梅川

寛政 10 年(1798)6 月 桐座  
芝居名：道行恋飛脚（みちゆきこいびきやく）  
忠兵衛：市川男女蔵(初世)  
梅川：松本米三郎  
絵師不詳

（内容は坂東三津五郎の項参照）

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：36



## お七

文化 10 年(1813)5 月 中村座  
芝居名：封文其名顯（ふうじぶみそのなもごぞんじ）  
お七：沢村田之助(2 世)  
五尺染五郎：尾上松助(2 世)後の尾上菊五郎(3 世)  
絵師：歌川豊国(初世)

恋心ゆえに放火し火刑に処せられた八百屋お七の史実を基にした「お七吉三」もののひとつ。

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：53



### 使用参考文献：

- 『歌舞伎事典』 平凡社 2000
- 『歌舞伎年表』 岩波書店 1956-63
- 『国立劇場上演資料集』
- 『歌舞伎俳優名跡便覧』 国立劇場 1968
- 雑誌『演劇界』
- 『歌舞伎名作事典』 演劇出版社 1996
- 『演劇百科大事典』 平凡社 1960

竹内道敬寄託文庫目録錦絵図録の部：通し番号

**歌舞伎役者今昔**  
**芸の力・家の力**

---

**2003.10.8-10.29**

国立音楽大学附属図書館2003.10.20